

海難事故の現状

～小型船舶の衝突事故を中心として～

平成20年4月24日

総務省総合通信基盤局
電波部衛星移動通信課

海難の現状について(1)

○海難船舶を用途別で見ると、プレジャーボート、漁船、貨物船が多い。

- ・平成19年度の海難船舶2579隻中
プレジャーボート:953隻(37%)、漁船:795隻(31%)、貨物船:357隻(14%)、等
- ・プレジャーボートの中では、モーターボートが7割
モーターボート:659隻(69%)、ヨット:133隻(14%) 等

○海難の種類としては、衝突が35%と一番多い。

- ・平成19年度の海難船舶2579隻中
衝突:892隻(35%)、乗揚:357隻(14%)、機関故障:337隻(13%)、等

○海難の発生場所としては、岸から3海里未満が80%、12海里未満が93%を占める。

- ・平成19年度の海難船舶2579隻中
港内:971隻(38%)、3海里未満(港内除く):1074隻(42%)、3~12海里:358隻(14%)、等

○海難の原因としては、見張り不十分、操船不適切が多い。

- ・平成19年度の海難船舶2579隻中
見張り不十分:636隻(25%)、操船不適切 :352隻(14%)、等

海難の現状について(2)

○衝突海難を起こした船舶の種類は、漁船、貨物船、プレジャーボートが多い。

- ・平成19年度 海難船舶2579隻中、衝突892隻のうち、
漁船:330隻(37%)、貨物船:202隻(23%)、プレジャーボート:168隻(19%)、等

○漁船の海難については衝突海難が一番多く、海難原因としては見張りの不十分が多い。

- ・平成19年度 漁船海難 795隻中、
 - －衝突:330隻(42%)、乗揚:84隻(11%)、転覆:68隻(9%)、等
 - －見張り不十分:281隻(35%)、操船不適切:74隻(9%)、等

○プレジャーボートの海難については機関故障に次いで衝突海難が多く、海難原因としては見張りの不十分が多い。

- ・平成19年度 プレジャーボート海難 953隻中、
 - －機関故障:188隻(20%)、衝突:168隻(18%)、乗揚:127隻(13%)、等
 - －見張り不十分:156隻(16%)、機関取扱不良:140隻(15%)、整備不良:136隻(14%)、等

○貨物船の海難については衝突海難が多く、海難原因としては操船不適切に次いで見張りの不十分が多い。

- ・平成19年度 貨物船海難 357隻中、
 - －衝突:202隻(57%)、乗揚:61隻(18%)、等
 - －操船不適切:96隻(27%)、見張り不十分:94隻(26%)、等

海難審判の裁決に見る船舶の衝突について(1)

○衝突海難が全裁決の36%を占め、海難の種類としては一番多い。

- ・平成18年度 裁決数 740件中
衝突:270件(36%)、乗揚:162件(22%)、機関損傷(11%)、等

○衝突海難を起こした船舶の種類は、漁船、貨物船、プレジャーボートが多い。

- ・平成18年度 裁決対象船舶1,061隻のうち衝突海難が568隻中
漁船:225隻(21%)、貨物船:128隻(12%)、プレジャーボート:81隻(8%)、等

○衝突海難の86%が「見張り不十分」によって発生。

- ・衝突海難270件中、どちらか一方、もしくは両船とも「見張り不十分」が原因とされた海難は、233件(86%)
- ・衝突海難568隻のうち、496隻で646原因が示されており、「見張り不十分」は、351原因(51%)と過半数

○見張り不十分の様態としては、相手船に気づかなかったケースが約半数。

- ・「見張り不十分」であった351隻をその態様ごとに3分類すると、

① 見張り態勢には就いていたが、衝突直前まで相手船に気づかなかった	: 158隻(45%)
② 見張りを行わなかった	: 98隻(28%)
③ 相手船を認めたものの、その後の動静監視を行っていなかった	: 95隻(27%)

海難審判の裁決に見る船舶の衝突について(2)

○見張り態勢には就いていたものの、相手船を見落とした要因

①漫然と航行	: 47隻 (30%)
②死角を補う見張りを行わなかった	: 39隻 (25%)
③一方向のみを見張っていた	: 35隻 (22%)
④第三船に気をとられていた	: 24隻 (15%)
⑤レーダー監視が適切でなかった	: 9隻 (6%)
⑥その他	: 4隻 (3%)

○見張りを行わなかった詳細

①不在橋	: 61隻 (62%)
・操業、漁獲物の選別、釣り等作業中	: 55隻
・居室等へ	: 2隻
・錨・漂泊中	: 2隻
・その他	: 2隻
②操舵室内で他の作業中	: 28隻 (29%)
③その他	: 9隻 (9%)

○相手船を認めたものの、その後の動静監視を行っていなかった詳細

①そのまま危険はないと思った	: 47隻 (49%)
②相手船が避けてくれると思った	: 22隻 (23%)
③避航措置をとったので大丈夫と思った	: 11隻 (12%)
④まだ余裕があると思った	: 5隻 (5%)
⑤その他	: 10隻 (11%)

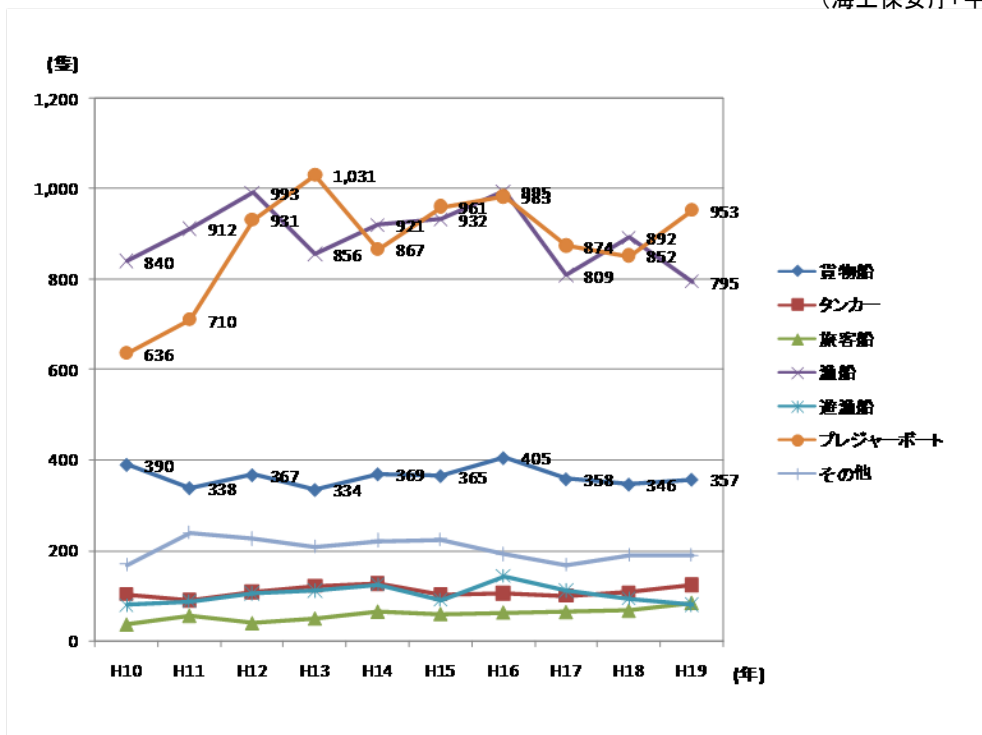
海難事故の現状(参照データ)

用途別による海難船舶隻数

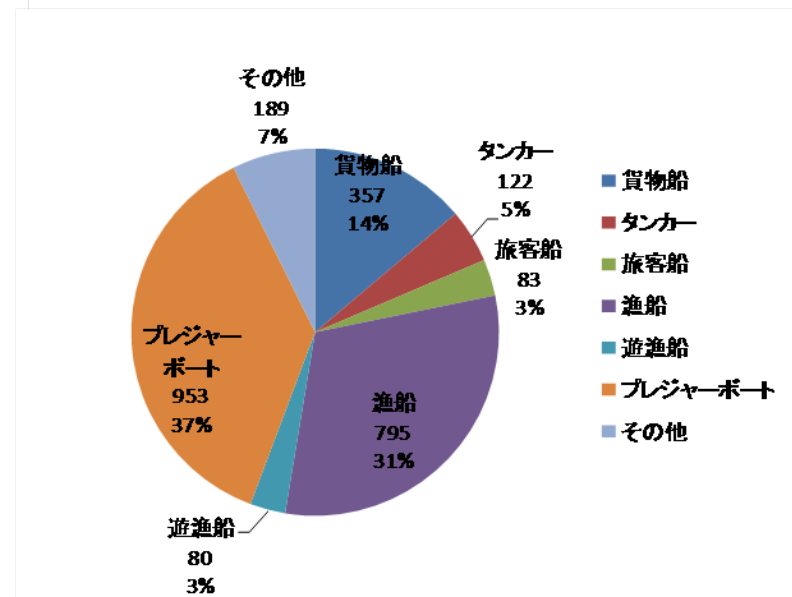
(単位:隻)

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
貨物船	390	338	367	334	369	365	405	358	346	357
タンカー	102	88	107	121	126	102	104	99	106	122
旅客船	36	55	39	49	64	59	62	63	66	83
漁船	840	912	993	856	921	932	995	809	892	795
遊漁船	79	87	105	111	125	90	143	111	93	80
プレジャーボート	636	710	931	1,031	867	961	983	874	852	953
その他	168	238	225	208	221	224	191	168	189	189
計	2,251	2,428	2,767	2,710	2,693	2,733	2,883	2,482	2,544	2,579

(海上保安庁「平成19年における海難及び人身事故の発生と救助の状況」より)



平成10年から平成19年までの海難船舶隻数の推移



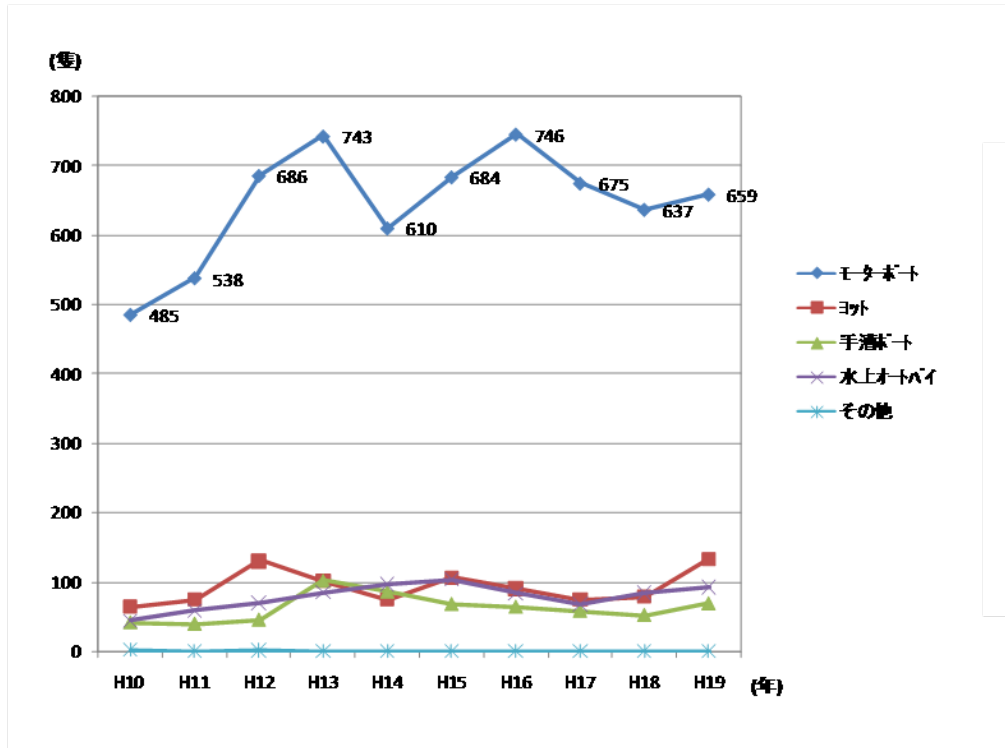
平成19年における海難船舶隻数の内訳

プレジャーボートの船型別による海難船舶隻数

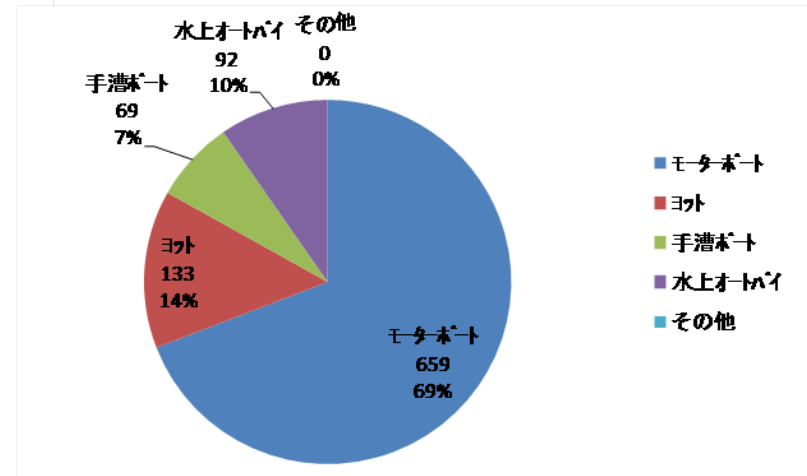
(単位:隻)

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
モーターボート	485	538	686	743	610	684	746	675	637	659
ヨット	64	75	130	101	75	106	90	74	79	133
手漕ボート	41	39	45	102	86	68	64	58	52	69
水上オートバイ	44	58	69	85	96	103	83	67	84	92
その他	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
計	636	710	931	1031	867	961	983	874	852	953

(海上保安庁「平成19年における海難及び人身事故の発生と救助の状況」より)



平成10年から平成19年までの
海難船舶(プレジャーボート)隻数の推移



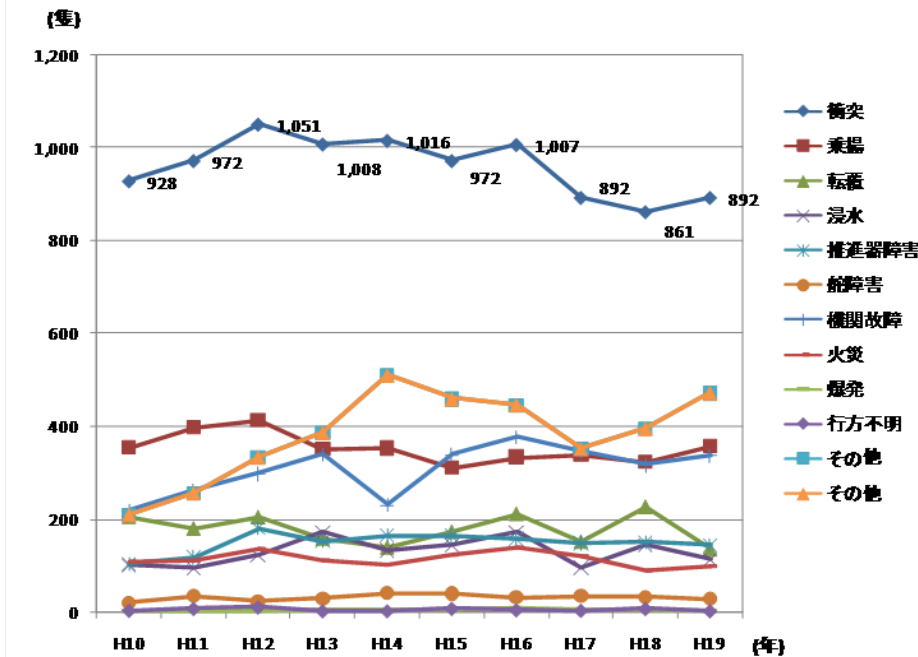
平成19年における海難船舶
(プレジャーボート)隻数の内訳

種類別による海難船舶隻数

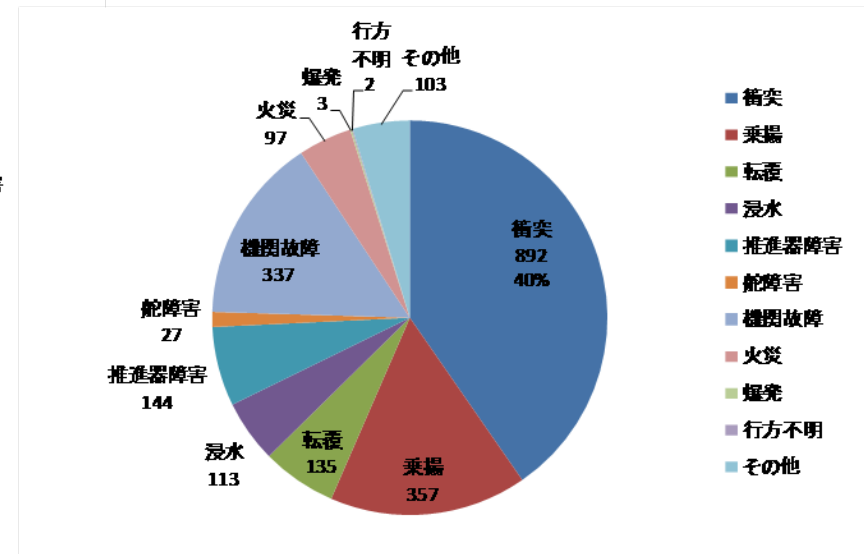
(単位:隻)

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
衝突	928	972	1,051	1,008	1,016	972	1,007	892	861	892
乗揚	354	396	412	351	352	310	333	339	322	357
転覆	204	179	203	158	139	172	210	151	225	135
浸水	101	94	121	171	133	145	172	95	144	113
推進器障害	104	117	180	153	165	164	157	148	150	144
舵障害	19	33	22	28	39	38	30	33	31	27
機関故障	219	261	298	339	230	339	377	346	317	337
火災	107	110	135	110	102	122	138	118	88	97
爆発	3	3	2	4	5	5	9	6	4	3
行方不明	3	7	10	2	2	7	4	3	7	2
その他	209	256	333	59	189	96	93	82	69	103
(運航阻害)				267	259	296	251	214	285	290
(安全阻害)				60	62	67	102	55	41	79
計	2,251	2,428	2,767	2,710	2,693	2,733	2,883	2,482	2,544	2,579

(海上保安庁「平成19年における海難及び人身事故の発生と救助の状況」より)



平成10年から平成19年までの海難船舶隻数の推移



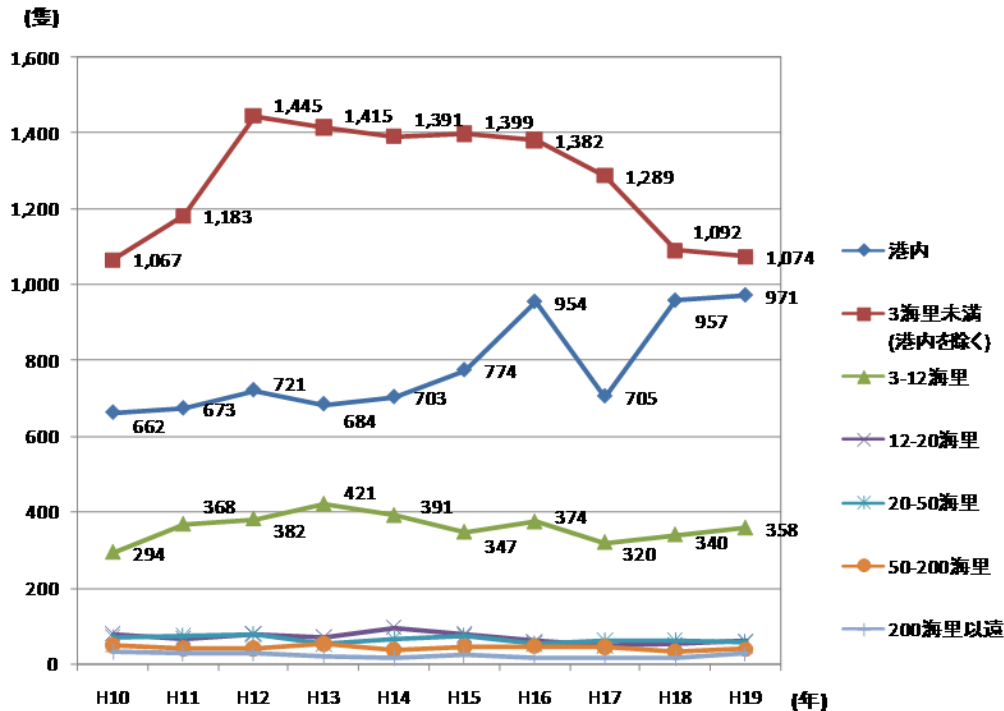
平成19年における海難船舶隻数の内訳

距岸別による海難船舶隻数

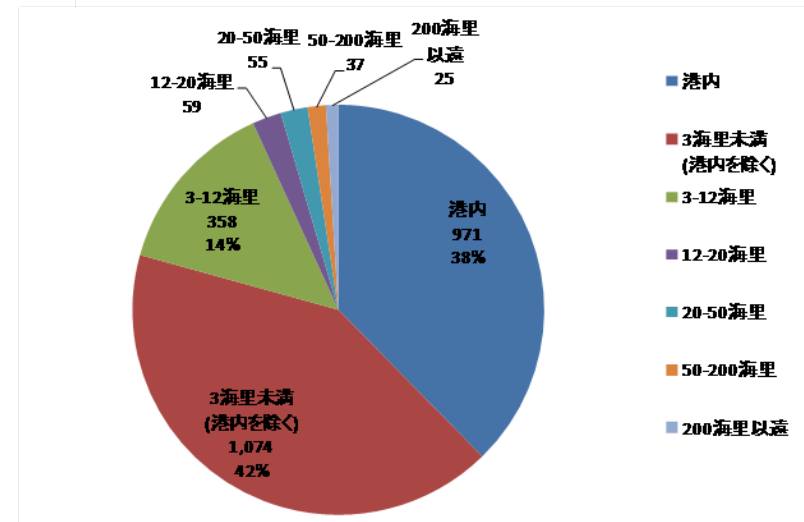
(単位:隻)

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
港内	662	673	721	684	703	774	954	705	957	971
3海里未満 (港内を除く)	1,067	1,183	1,445	1,415	1,391	1,399	1,382	1,289	1,092	1,074
3-12海里	294	368	382	421	391	347	374	320	340	358
12-20海里	79	66	78	69	95	77	59	46	49	59
20-50海里	70	72	77	51	63	72	52	61	61	55
50-200海里	48	39	39	52	34	42	45	44	30	37
200海里以遠	31	27	25	18	16	22	17	17	15	25
計	2,251	2,428	2,767	2,710	2,693	2,733	2,883	2,482	2,544	2,579

(海上保安庁「平成19年における海難及び人身事故の発生と救助の状況」より)



平成10年から平成19年までの海難船舶隻数の推移

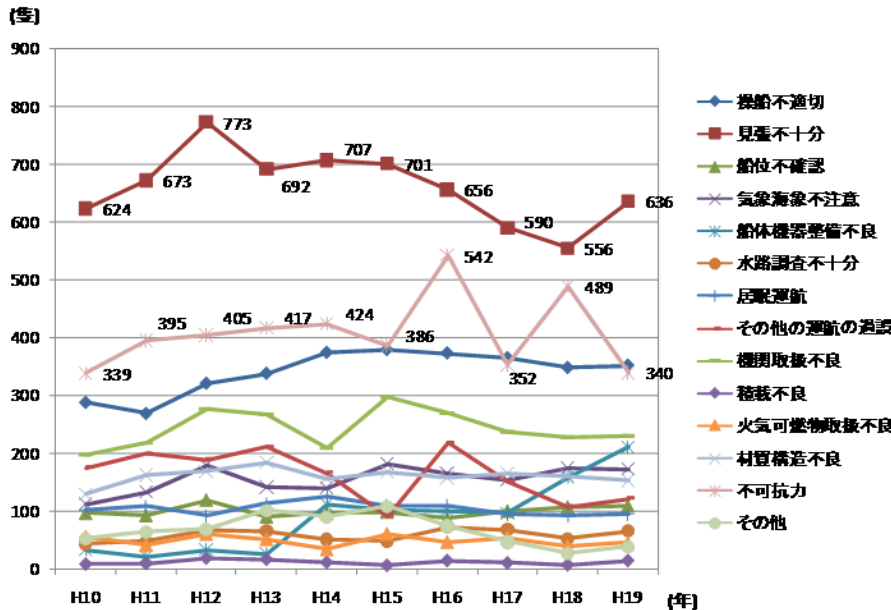


平成19年における海難船舶隻数の内訳

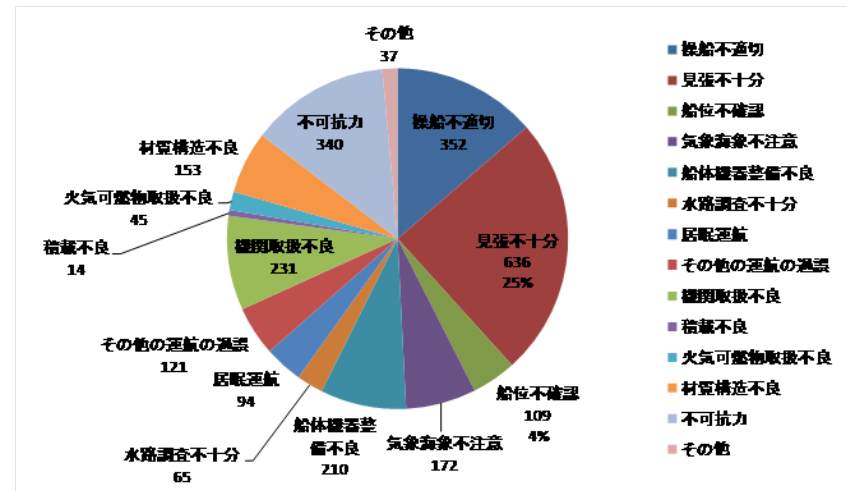
海難の原因別による海難船舶隻数

(単位:隻)

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
操船不適切	288	269	321	338	374	379	373	365	348	352
見張り不十分	624	673	773	692	707	701	656	590	556	636
船位不確認	96	92	119	90	96	98	87	100	107	109
気象海象不注意	112	132	179	141	140	181	165	154	173	172
船体機器整備不良	32	21	33	25	111	101	100	96	158	210
水路調査不十分	43	47	66	65	51	47	72	68	52	65
居眠運航	101	108	92	113	126	110	109	94	92	94
その他の運航の過誤	174	198	188	210	165	91	217	150	108	121
機関取扱不良	198	218	277	267	209	298	271	238	229	231
積載不良	8	9	18	16	11	6	14	10	7	14
火気可燃物取扱不良	55	41	60	51	34	60	46	54	39	45
材質構造不良	129	162	168	183	156	167	157	165	160	153
不可抗力	339	395	405	417	424	386	542	352	489	340
その他	52	63	68	102	89	108	74	46	26	37
計	2,251	2,428	2,767	2,710	2,693	2,733	2,883	2,482	2,544	2,579



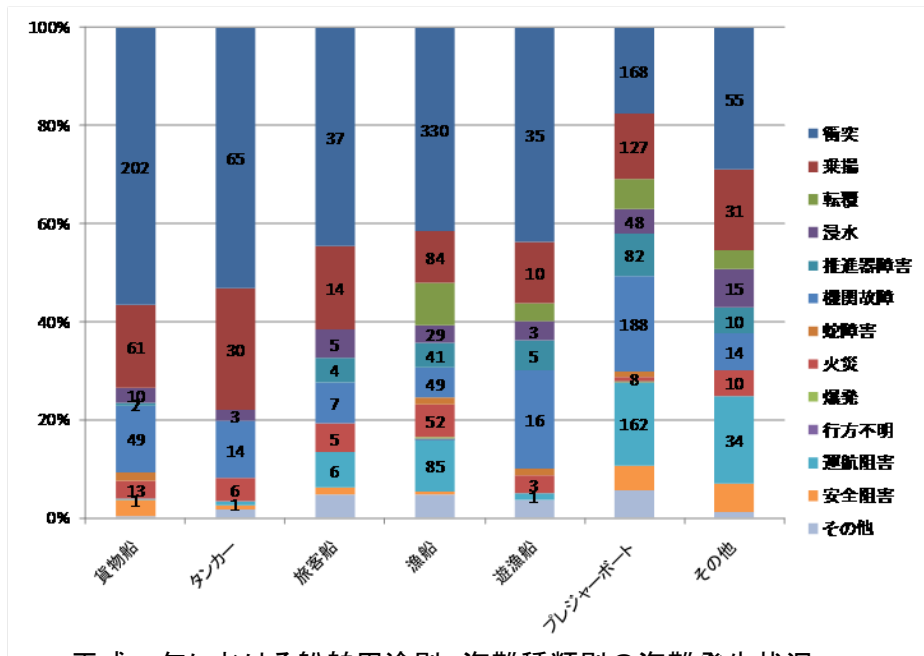
(海上保安庁「平成19年における海難及び人身事故の発生と救助の状況」より)



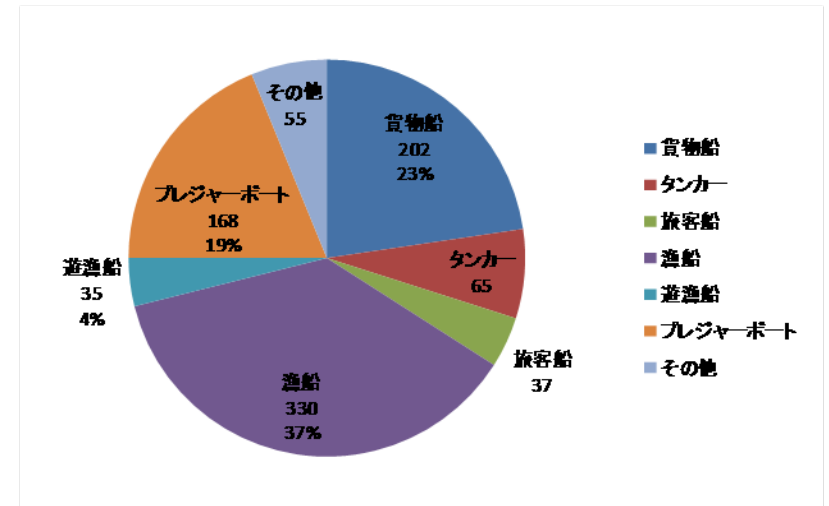
用途別・種類別による海難発生状況(平成19年)

(単位:隻)

	貨物船	タンカー	旅客船	漁船	遊漁船	プレジャーボート	その他	計
衝突	202	65	37	330	35	168	55	892
乗揚	61	30	14	84	10	127	31	357
転覆				68	3	57	7	135
浸水	10	3	5	29	3	48	15	113
推進器障害	2		4	41	5	82	10	144
蛇障害	6			11	1	9		27
機関故障	49	14	7	49	16	188	14	337
火災	13	6	5	52	3	8	10	97
爆発				2		1		3
行方不明				1		1		2
運航阻害	1	1	6	85	1	162	34	290
安全阻害	12	1	1	5		49	11	79
その他	1	2	4	38	3	53	2	103
計	357	122	83	795	80	953	189	2,579



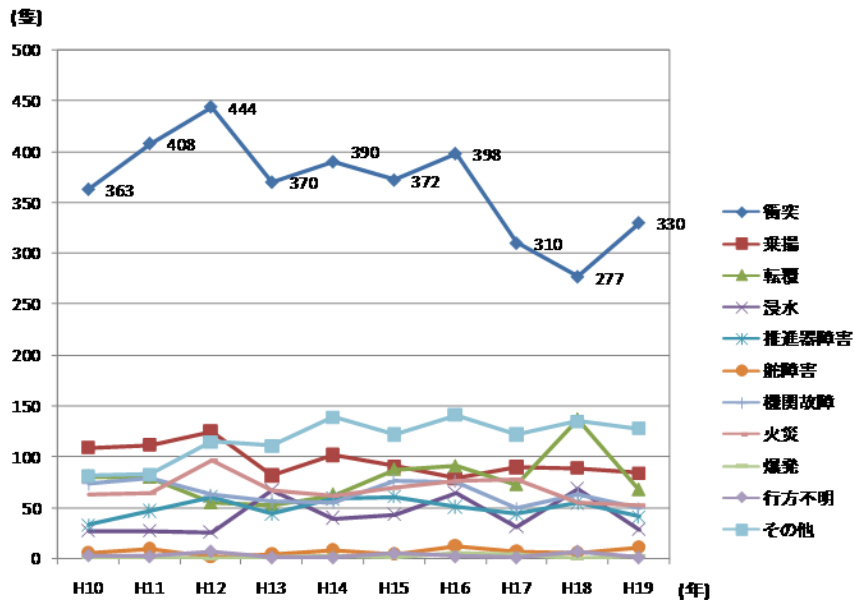
(海上保安庁「平成19年における海難及び人身事故の発生と救助の状況」より)



漁船海難の種類別による海難船舶隻数

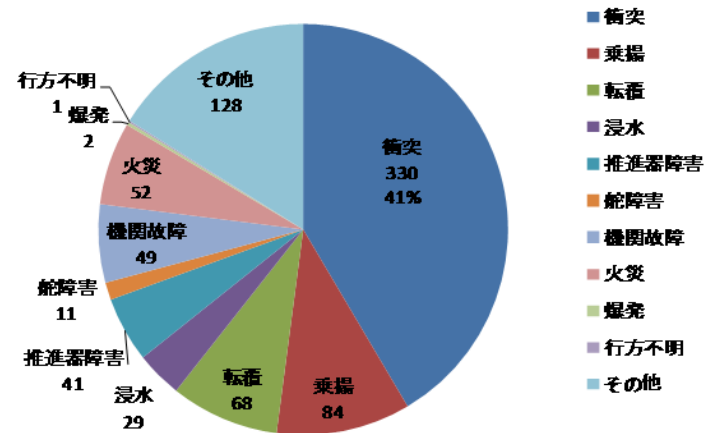
(単位:隻)

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
衝突	363	408	444	370	390	372	398	310	277	330
乗揚	109	112	125	82	102	91	79	90	89	84
転覆	81	80	55	53	63	88	91	73	137	68
浸水	27	27	26	68	40	43	65	31	69	29
推進器障害	33	47	61	44	59	61	51	44	55	41
舵障害	6	9	2	4	8	4	12	7	6	11
機関故障	73	79	62	56	55	76	75	49	63	49
火災	62	64	96	66	61	69	76	78	54	52
爆発	1	1	0	1	3	1	5	4	0	2
行方不明	3	2	7	1	1	5	2	1	7	1
その他	82	83	115	12	33	31	44	38	21	38
(運航阻害)				97	98	86	87	78	111	85
(安全阻害)				2	8	5	10	6	3	5
計	840	912	993	856	921	932	995	809	892	795



平成10年から平成19年までの海難船舶隻数の推移

(海上保安庁「平成19年における海難及び人身事故の発生と救助の状況」より)

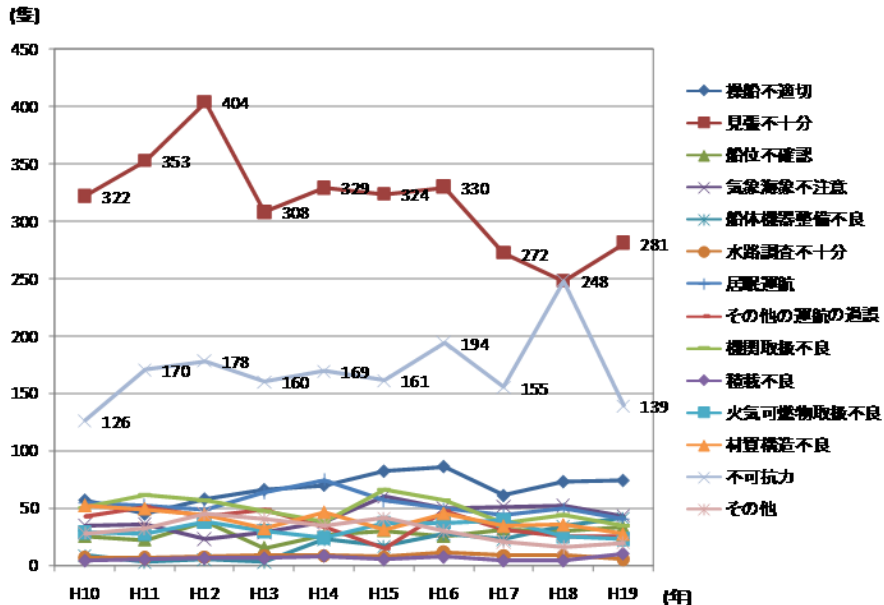


平成19年における海難船舶隻数の内訳

漁船海難の原因別による海難船舶隻数

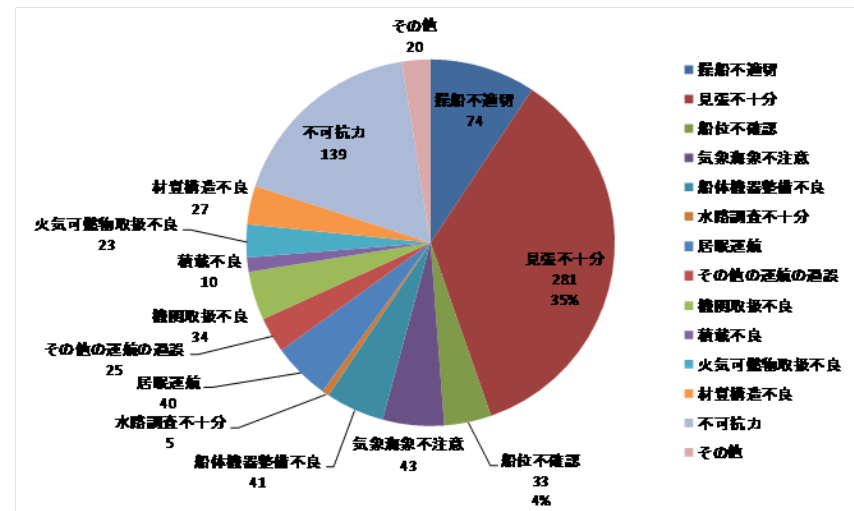
(単位:隻)

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
操船不適切	57	45	58	66	70	82	86	61	73	74
見張り不十分	322	353	404	308	329	324	330	272	248	281
船位不確認	25	22	38	15	26	30	25	31	30	33
気象海象不注意	35	36	23	29	38	60	50	51	52	43
船体機器整備不良	9	3	5	3	23	17	27	23	34	41
水路調査不十分	6	6	7	8	8	7	11	8	8	5
居眠運航	54	52	48	63	74	56	49	43	49	40
その他の運航の過誤	43	51	43	49	34	15	47	31	26	25
機関取扱不良	50	61	56	47	37	66	57	36	44	34
積載不良	4	5	6	6	8	5	7	4	4	10
火気可燃物取扱不良	29	27	38	30	24	37	37	39	25	23
材質構造不良	52	49	44	32	46	31	45	34	35	27
不可抗力	126	170	178	160	169	161	194	155	248	139
その他	28	32	45	40	35	41	30	21	16	20
計	840	912	993	856	921	932	995	809	892	795



平成10年から平成19年までの海難船舶隻数の推移

(海上保安庁「平成19年における海難及び人身事故の発生と救助の状況」より)



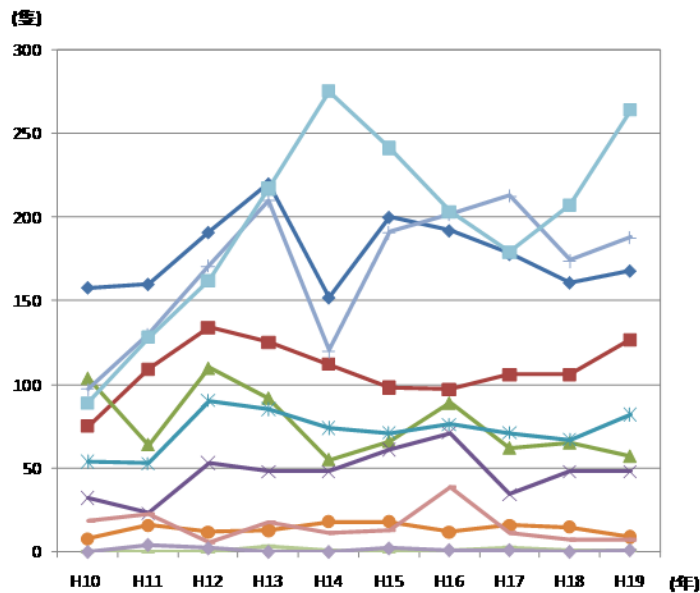
平成19年における海難船舶隻数の内訳

プレジャーボート海難の種類別による海難船舶隻数

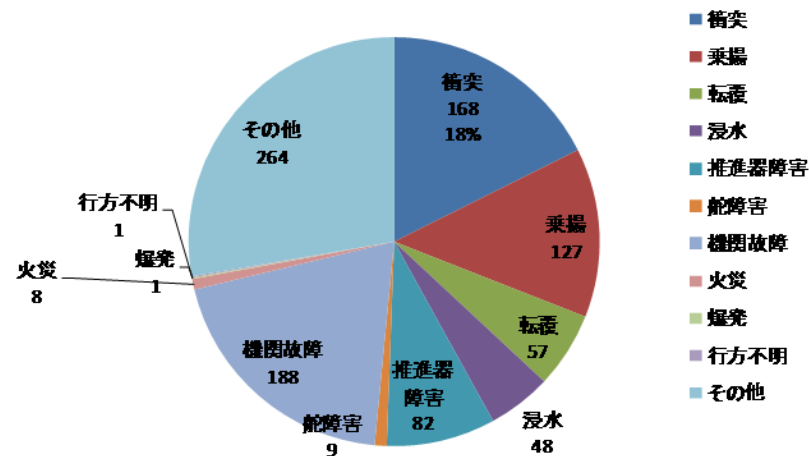
(単位:隻)

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
衝突	158	160	191	220	152	200	192	178	161	168
乗揚	75	109	134	125	112	98	97	106	106	127
転覆	104	64	110	92	55	66	89	62	65	57
浸水	32	23	53	48	48	61	71	34	48	48
推進器障害	54	53	90	85	74	71	76	71	67	82
舵障害	8	16	12	13	18	18	12	16	15	9
機関故障	97	130	171	210	120	191	202	213	174	188
火災	19	23	6	18	12	13	39	12	8	8
爆発	0	0	0	3	1	0	1	2	1	1
行方不明	0	4	2	0	0	2	1	1	0	1
その他	89	128	162	40	108	44	40	39	45	53
(運航阻害)				147	131	160	123	113	137	162
(安全阻害)				30	36	37	40	27	25	49
計	636	710	931	1031	867	961	983	874	852	953

(海上保安庁「平成19年における海難及び人身事故の発生と救助の状況」より)



平成10年から平成19年までの海難船舶隻数の推移

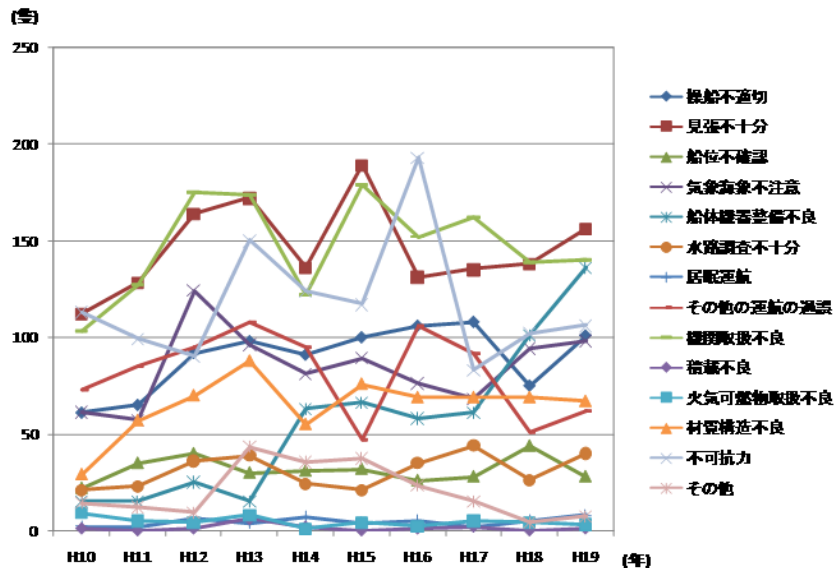


平成19年における海難船舶隻数の内訳

プレジャーボート海難の原因別による海難船舶隻数

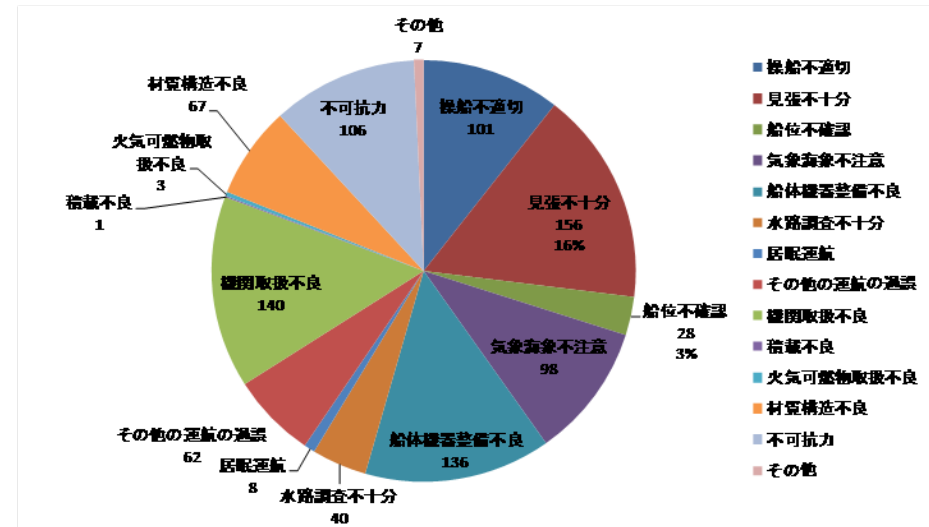
(単位:隻)

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
操船不適切	61	65	92	98	91	100	106	108	75	101
見張不十分	112	128	164	172	136	189	131	135	138	156
船位不確認	22	35	40	30	31	32	26	28	44	28
気象海象不注意	61	57	124	96	81	89	76	68	94	98
船体機器整備不良	15	15	25	15	63	66	58	61	101	136
水路調査不十分	21	23	36	39	24	21	35	44	26	40
居眠運航	2	2	6	4	7	4	5	2	5	8
その他の運航の過誤	73	85	95	108	95	47	106	92	51	62
機関取扱不良	103	127	175	174	122	179	152	162	139	140
積載不良	1	0	1	6	2	0	1	2	0	1
火気可燃物取扱不良	9	5	4	8	1	4	2	5	4	3
材質構造不良	29	57	70	88	55	76	69	69	69	67
不可抗力	113	99	90	150	124	117	193	83	102	106
その他	14	12	9	43	35	37	23	15	4	7
計	636	710	931	1031	867	961	983	874	852	953



平成10年から平成19年までの海難船舶隻数の推移

(海上保安庁「平成19年における海難及び人身事故の発生と救助の状況」より)



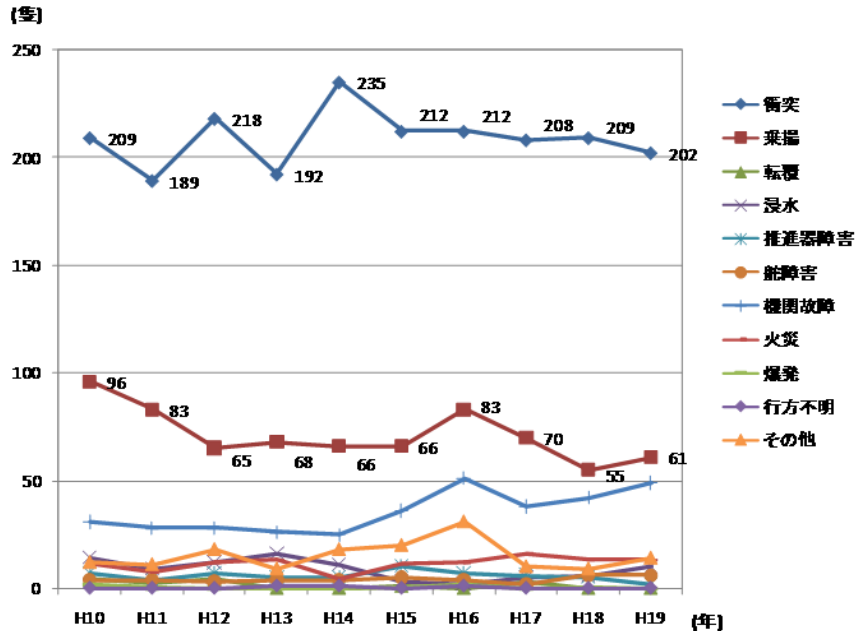
平成19年における海難船舶隻数の内訳

貨物船海難の種類別による海難船舶隻数

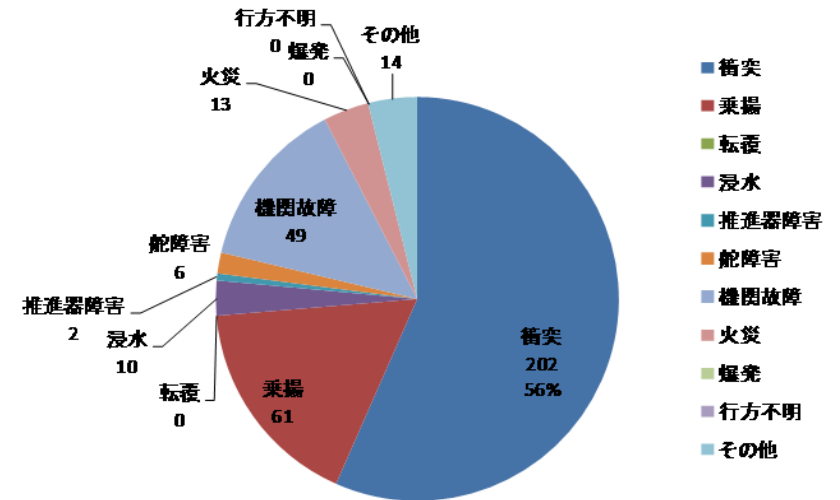
(単位:隻)

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
衝突	209	189	218	192	235	212	212	208	209	202
乗揚	96	83	65	68	66	66	83	70	55	61
転覆	4	2	4	0	0	1	0	3	0	0
浸水	14	9	12	16	11	3	2	5	6	10
推進器障害	7	4	7	5	5	10	7	6	5	2
舵障害	4	4	3	4	4	5	4	2	6	6
機関故障	31	28	28	26	25	36	51	38	42	49
火災	11	7	12	13	4	11	12	16	13	13
爆発	2	1	0	0	0	1	2	0	1	0
行方不明	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0
その他	12	11	18	0	11	9	2	2	1	1
(運航阻害)				1	0	1	2	0	1	1
(安全阻害)				8	7	10	27	8	7	12
計	390	338	367	334	369	365	405	358	346	357

(海上保安庁「平成19年における海難及び人身事故の発生と救助の状況」より)



平成10年から平成19年までの海難船舶隻数の推移



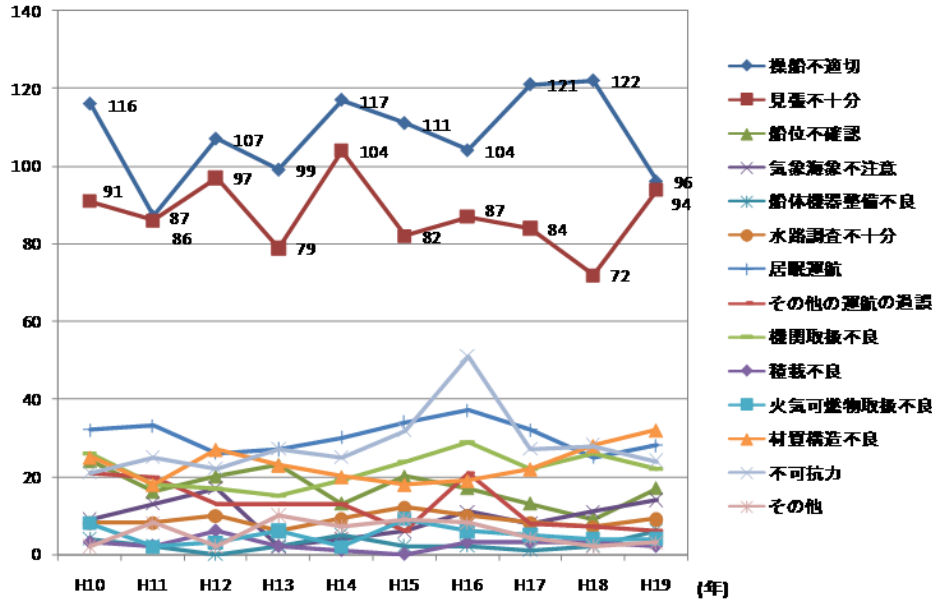
平成19年における海難船舶隻数の内訳

貨物船海難の原因別による海難船舶隻数

(単位:隻)

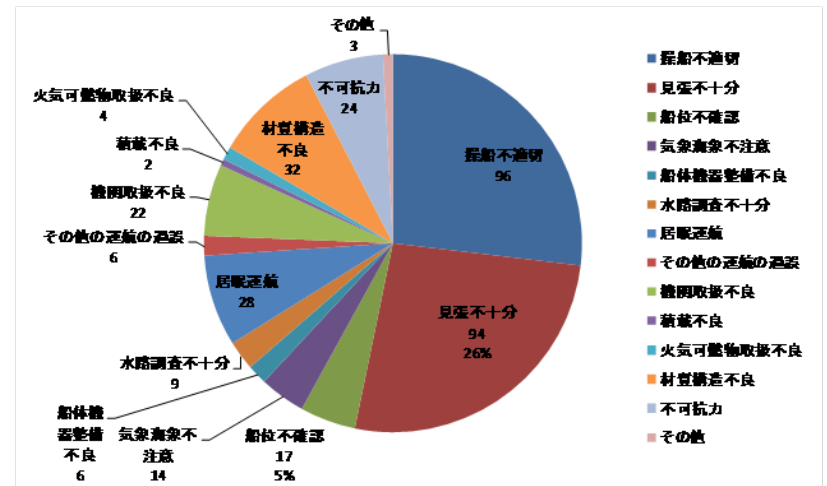
	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
操船不適切	116	87	107	99	117	111	104	121	122	96
見張り不十分	91	86	97	79	104	82	87	84	72	94
船位不確認	24	16	20	23	13	20	17	13	9	17
気象海象不注意	9	13	17	2	4	6	11	8	11	14
船体機器整備不良	4	2	0	2	5	2	2	1	2	6
水路調査不十分	8	8	10	6	9	12	10	8	7	9
居眠運航	32	33	26	27	30	34	37	32	25	28
その他の運航の過誤	21	20	13	13	13	6	21	8	7	6
機関取扱不良	26	18	17	15	19	24	29	22	26	22
積載不良	3	2	6	2	1	0	3	3	3	2
火気可燃物取扱不良	8	2	3	6	2	9	6	5	4	4
材質構造不良	25	18	27	23	20	18	19	22	28	32
不可抗力	21	25	22	27	25	32	51	27	28	24
その他	2	8	2	10	7	9	8	4	2	3
計	390	338	367	334	369	365	405	358	346	357

(隻)



平成10年から平成19年までの海難船舶隻数の推移

(海上保安庁「平成19年における海難及び人身事故の発生と救助の状況」より)



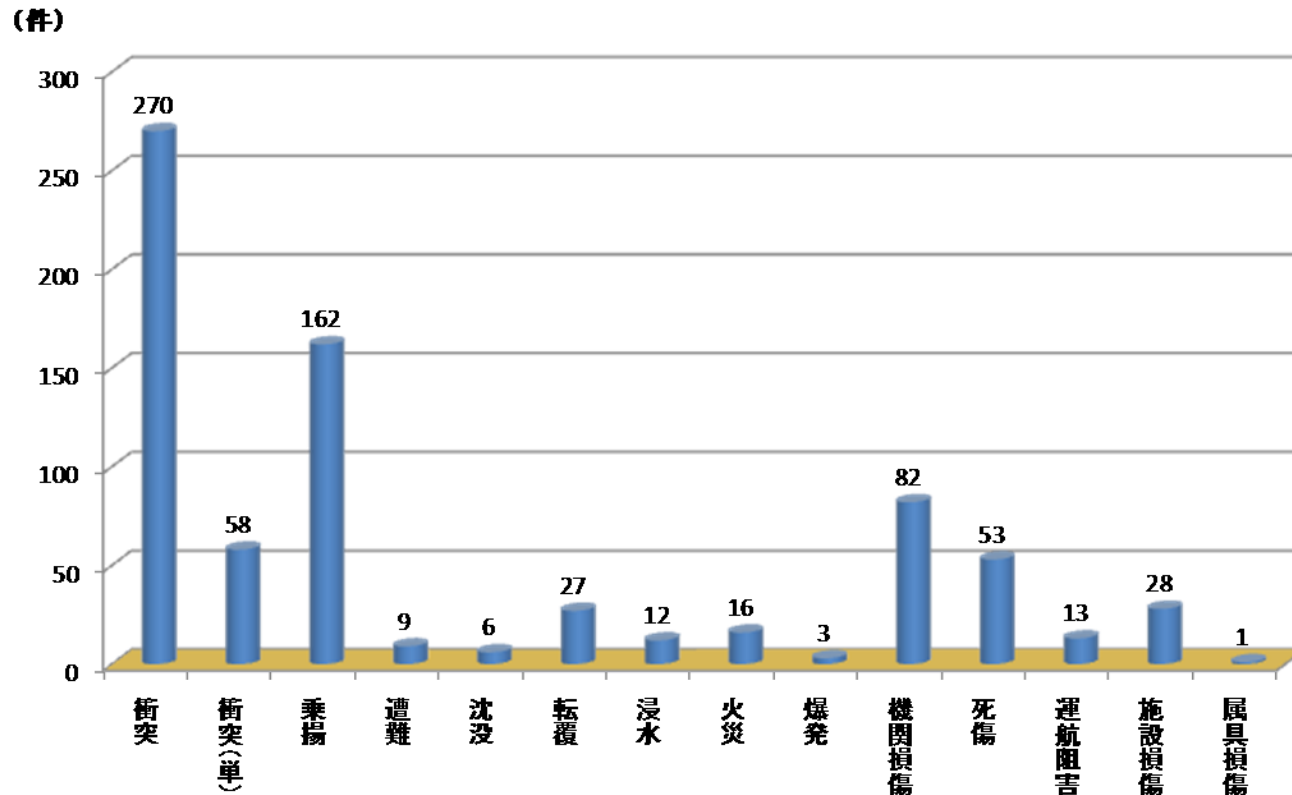
平成19年における海難船舶隻数の内訳

海難審判の採決に見る船舶の衝突(平成18年) (1)

参考: 海難審判庁「海難レポート2007」

平成18年の海難審判における740件の採決のうち、
衝突に関する採決は270件

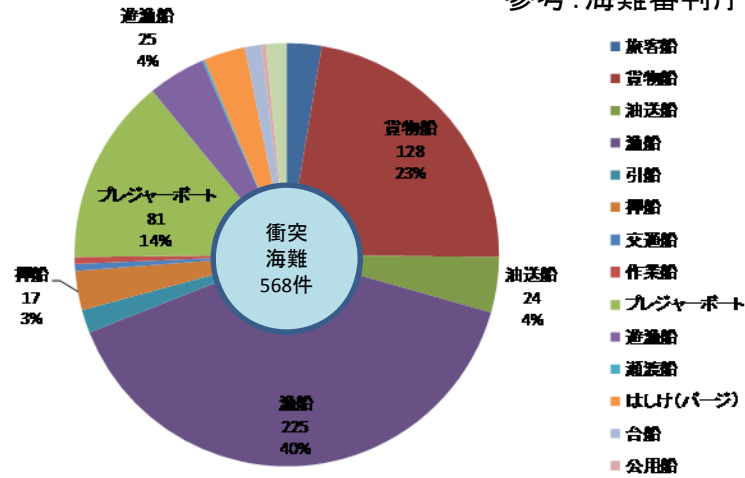
海難種類別採決件数



海難審判の採決に見る船舶の衝突(平成18年) (2)

平成18年に採決の対象となった船舶1061隻のうち、衝突による海難船舶は568隻

参考: 海難審判庁「海難レポート2007」

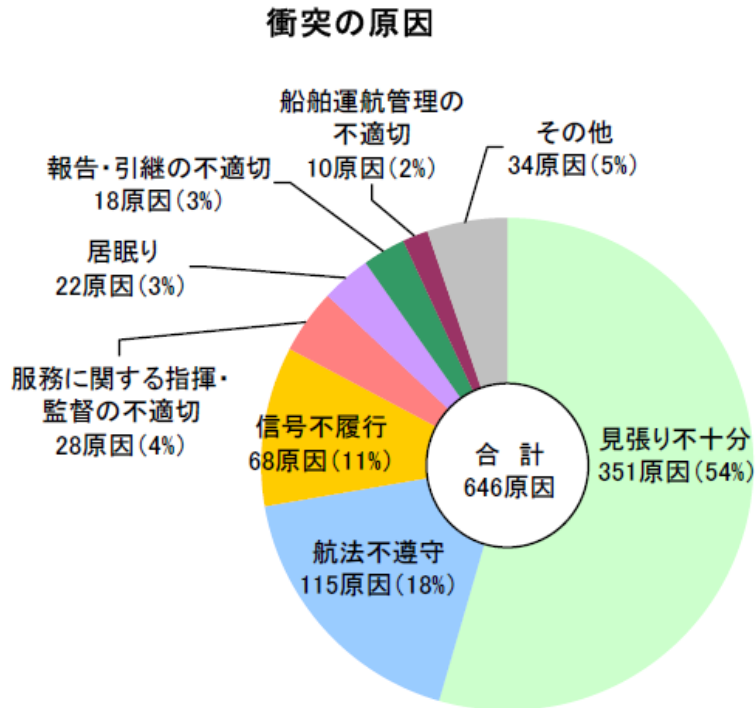


	衝突	衝突(単)	乗揚	遭難	沈没	転覆	浸水	機関損傷	火災	爆発	施設等損傷	死傷等	運航阻害	属具損傷	計
旅客船	15	7	13				1	5	2		2	9	2		56
貨物船	128	15	51	1	3	1	1	13	4	1	14	6	3		241
油送船	24	4	7					2		1	1	1	1		41
漁船	225	14	43	3	2	15	7	56	9		4	17	2	1	398
引船	10	2	2	1	1							3			19
押船	17	2	4			1	1	1	1						26
交通船	3		1				1	1							6
作業船	3	1	3				1					1			9
プレジャーボート	81	12	30	4	1	10	1	3	3	1	3	15	3		167
遊漁船	25		3			1						4	1		34
瀬渡船	1	1	2												4
はしけ(バージ)	18	1	3								2				24
台船	7	2	1	1							1				12
公用船	2		1								1				4
その他	9	2	3			1		1				3	1		20
計	568	63	167	10	7	30	12	82	18	3	31	56	13	1	1,061

海難審判の採決に見る船舶の衝突(平成18年)(3)

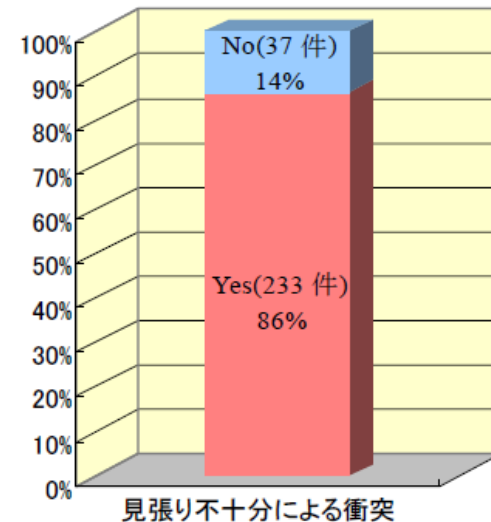
参考:海難審判庁「海難レポート2007」

平成18年の衝突海難で示された646原因のうち、
見張り不十分は351原因(54%)



平成18年の衝突海難270件のうち、どちらか一方、
もしくは両船とも「見張り不十分」が原因とされた海難は
233件(86%)

衝突 270 件中、見張り不十分が
原因とされた割合

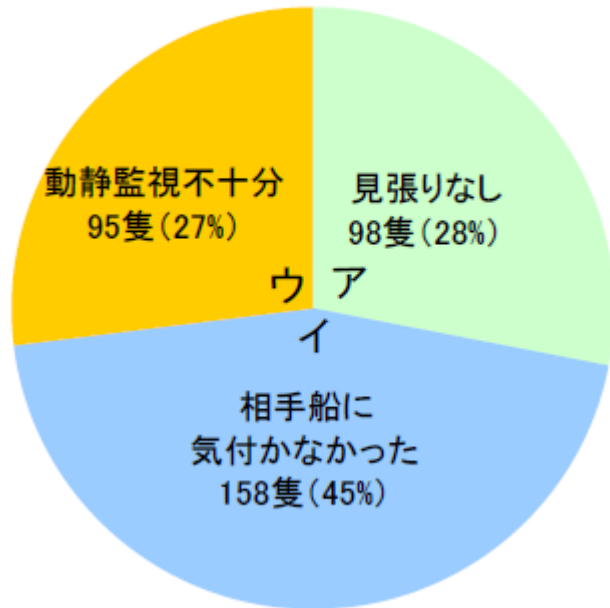


海難審判の採決に見る船舶の衝突(平成18年)(4)

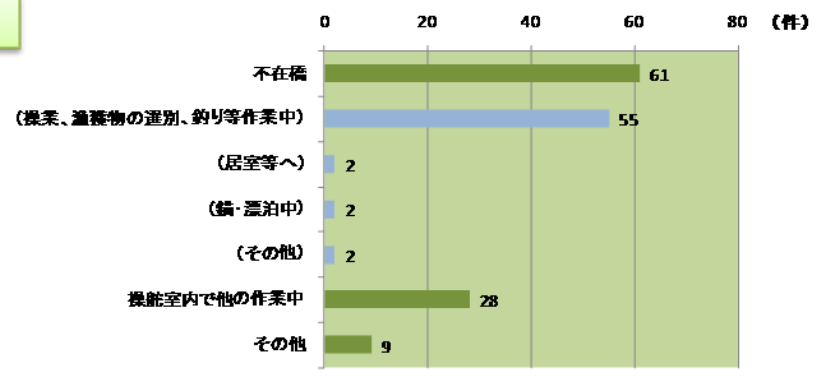
参考: 海難審判庁「海難レポート2007」

平成18年の衝突海難において、「見張り不十分」であった351隻を3種類の態様に分類

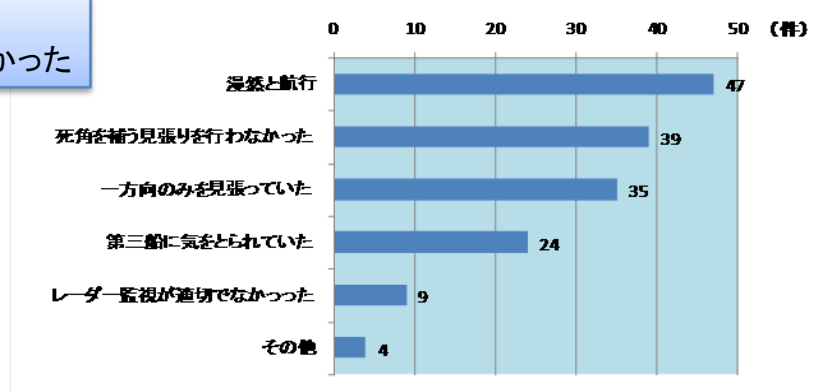
見張り不十分の態様



見張りなし



相手船に気付かなかった



動静監視不十分

